

# 環境報告書

## 2020

国立大学法人 九州大学

基幹教育院

共創学部



## 目 次

---

トップメッセージ	1
第1章 環境配慮活動に向けて	
・ 概要	2
・ 環境マネジメント体制	3
・ 環境活動計画と目標	4
第2章 環境教育・研究と環境保全	
・ 新入生に対する環境・保全教育	5
・ 環境関連の授業科目	6
・ 安全管理	7
第3章 エネルギー・資源の削減	
・ 資源、エネルギー、廃棄物	8
・ エネルギー消費と削減活動	9
・ 用紙類の使用量削減、グリーン購入	11
・ 生活系ゴミ	12
第4章 化学物質の管理	
・ 廃棄物	13

大学の諸活動は国や社会、人々の支援によって成り立つものであり、大学は研究や教育を通じて人々の営みの維持発展に貢献することが求められています。人類にとって喫緊の課題である環境問題についてもまったく同様です。大学は環境問題の解決に資する研究や教育に積極的に取り組むことが求められることはいうまでもありませんが、それにとどまらず、自らが行う諸活動そのものが環境への負荷をどれだけ生み出しているのかを把握し、それをできるだけ低減すること、そのための仕組みを作り、成果を検証し、改善を図っていくことが重要です。

九州大学では、環境保全管理委員会のもとに、環境広報部会、環境教育研究部会、資源エネルギー部会及び環境安全部会の4つの部会が設置され、環境マネジメント体制が整備されています。この体制のもとで、九州大学を構成する学生及び教職員が環境に配慮した活動に取り組むとともに、環境に関する教育・研究の充実をはかっています。

九州大学伊都地区センターゾーンには、九州大学の全学部の初年次教育を担う基幹教育院や、2018年度に新たに設置された共創学部、世界的な先端的研究に取り組むカーボンニュートラル・エネルギー国際研究所や次世代燃料電池産学連携センター等が配置されています。基幹教育では数多くの環境問題に関する授業が実施されており、共創学部でも「地球・環境エリア」を中心に地球環境を考えることが教育の大きな柱となっています。カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所は低炭素排出、効率的なエネルギーシステムの構築に取り組んでおり、次世代燃料電池産学連携センターは燃料電池を核にした環境にやさしい水素エネルギー社会の実現を目指しています。

センターゾーンにはそのような正課の教育や研究の他に、学生食堂や課外活動施設、ドミトリーなど学生生活の基盤となる施設が配置されています。また、伊都ゲストハウスや日本ジョナサン・KS・チョイ文化館などさまざまな交流の拠点であるとともに、九州大学の本部機能を担う事務局がある地区です。様々な機能を担うセンターゾーンの環境配慮活動の取り組みは、九州大学全体、そして九州大学に係る社会に対しても重要な意味を持っているといえるでしょう。

本報告書はセンターゾーンで取り組んでいる環境活動をまとめたものであり、冒頭に述べた社会の支援に対する大学からの応答の一つです。九州大学伊都地区センターゾーンではどのような環境に関する活動が行われているのか、どれほどの環境負荷が生み出され、それを低減させるためにどのような努力がなされているのか、今後環境への負荷をさらに少なくするにはどうすればよいのか、そのために自分自身の生活をどのように変えていけばよいのか——この資料を、このような問題を考えるための一助としてご利用いただければ幸いです。

2020年(令和2年)5月25日  
共創学部長 鏑木政彦

# 第1章 環境配慮活動に向けて

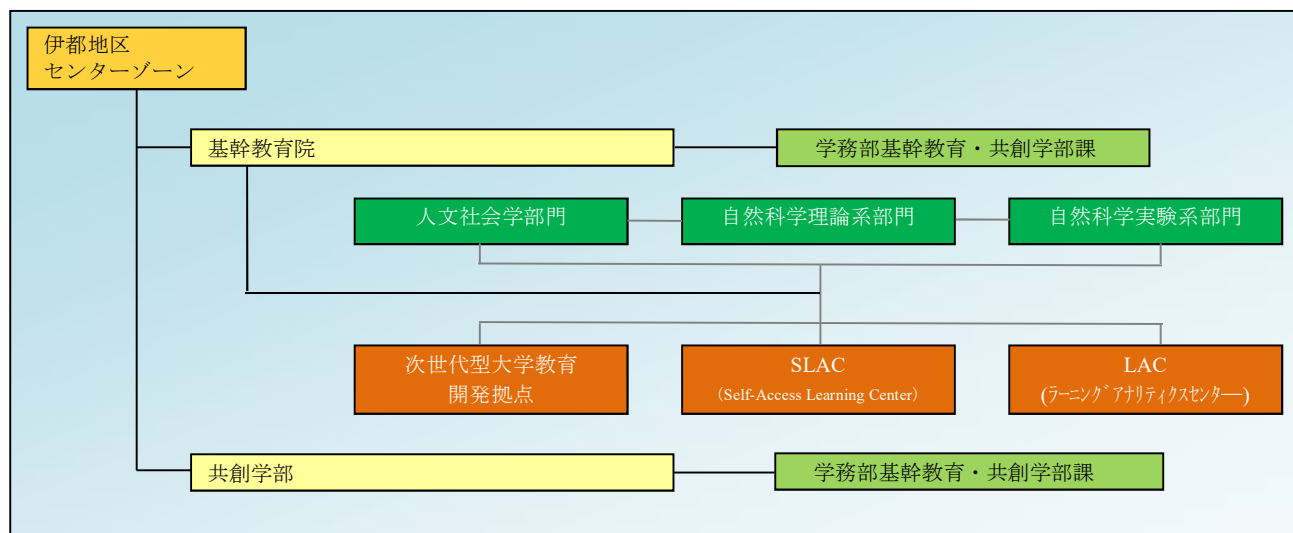
## 概 要

部局名 基幹教育院・共創学部

所在地 〒819-0395 福岡市西区元岡744

TEL 092-802-2421 URL <http://www.kyushu-u.ac.jp>

### 基幹教育院・共創学部の組織



構成員 教職員・学生 3,605 名 (令和2年5月現在)  
[内訳] 教職員 647 名 (教員 59 名、職員(常勤)399 名、職員(非常勤)189 名)  
学部学生 2,958 名 (学部1年生 2,716 名、共創学部2、3年生 210 名、  
21世紀プログラム4年生 32 名、  
基幹教育院所属の非正課生 0 名)

環境報告対象の組織  
基幹教育院、共創学部

報告期間  
「環境報告書2020」に記載している内容は、主に2019年度(平成31年4月1日から令和2年3月31日)の基幹教育院・共創学部における取り組み・実績となっており、一部、令和2年4月1日以降の取り組みや活動データが含まれています。

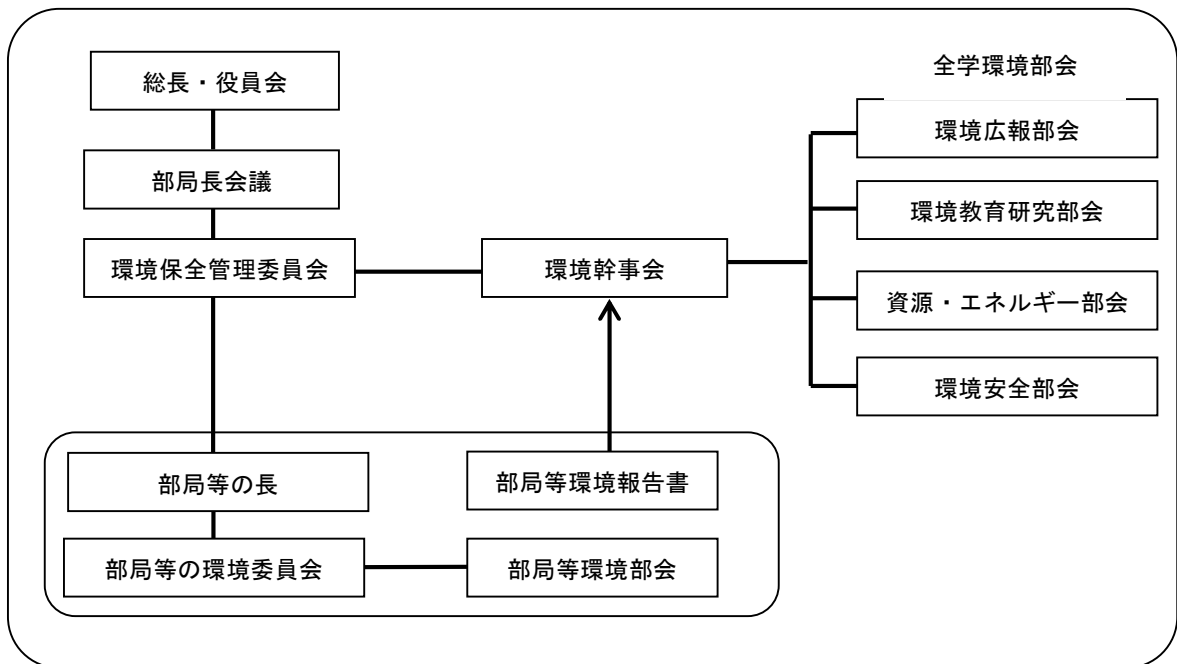
## 第1章 環境配慮活動に向けて

### 環境マネジメント体制

平成17年4月1日に施行された「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律」(環境配慮促進法)を受け、本学では「環境保全管理委員会」のもとに環境広報部会、環境教育研究部会、資源エネルギー部会及び環境安全部会の4つの部会が設置され、環境マネジメント体制が整備されました。

このことに伴い、環境配慮の取り組み体制を構築しています。

環境配慮の取り組み体制



## 第1章 環境配慮活動に向けて

### 環境活動計画と目標

令和元年度の環境目標に対する評価及び令和2年度の目標を以下に示します。

事項	令和元年度目標	令和元年度の評価	令和2年度目標
組織・体制	移転の年次進行を踏まえ、引き続き、学務部、統合移転推進部資産活用課、施設部が連携の上、報告書を作成する。	学務部、統合移転推進部資産活用課、施設部が連携の上、報告書の作成ができた。	事務再編に伴い、組織をセンターゾーン地区から基幹教育院・共創学部に見直し、報告書を作成する。
温暖化対策	引き続き、エネルギー使用量の減少に努める。	センター1、2号館において、照明器具（約3,400台）をLEDに更新した。	引き続き、エネルギー使用量の減少に努める。
資源・循環	引き続き、リサイクルシステムの利用拡大を推進する。	通知等を積極的に行い、リサイクルシステムの利用拡大を推進した。	引き続き、リサイクルシステムの利用拡大を推進する。
	古紙類の再利用を推進し、さらなる古紙類再生の徹底をはかる。	古紙用の保管容器を活用利用する等の方法で、再生用古紙の分別、裏紙の利用を推進し、再生をより徹底させた。	古紙類の再利用を推進し、さらなる古紙類再生の徹底をはかる。
グリーン購入	引き続き、九州大学グリーン調達方針に基づいた調達を行う。	九州大学グリーン調達方針に基づき、調達を行った。	引き続き、九州大学グリーン調達方針に基づいた調達を行う。
化学物質管理	引き続き、薬品管理システムへの登録漏れがないよう努める。	関係者に利用状況調査及び利用促進の通知をして登録漏れがないよう努めた。	引き続き、薬品管理システムへの登録漏れがないよう努める。
	昨年同様に、全学で行っている薬品処分処理する。	廃薬品を全学の薬品処分処理した。（36本）	昨年同様に、全学で行っている薬品処分処理する。

## 第2章 環境教育・研究と環境保全

### 新入生に対する環境・保全教育

入学時に全新生に、身近に発生するトラブルや事故を未然に防ぐための普段からの心がけや初歩的な対応をまとめた冊子「学生生活ハンドブック」を配布しています。

#### 私達の手できれいな環境を

- ①未成年者の喫煙は禁止されています。  
また、令和元年9月1日から敷地内は全面禁煙となっています。
- ②ゴミの分別収集に協力しましょう。（ゴミは指定したくずかごへ）
- ③公共の施設・備品を大切にしましょう。

**九州大学の学生としての自覚を期待します。**



### 環境にやさしい学園祭

平成19年度（第60回）の九大祭から、九州大学環境サークル・Ecoaが中心となって、環境に配慮したバイオマスカップ、リサイクル食器「ホッかる、」そして使用後は竹炭となる竹割りばしを使用し、環境意識の向上やごみの減量に取り組み、成果を上げてきました。平成21年度（第62回）からはその取り組みを発展させ、リサイクル食器に代わり、リユース食器を導入することで、ごみの排出量を更に削減し、資源の循環型システムの構築と環境への負荷軽減を図っています。

リユース食器は、プラスチック等の素材でできており使用後は回収・洗浄した後に再び食器として使用しました。バイオマスカップは、トウモロコシから作られており、ケミカルリサイクルという手法でリサイクルが可能です。カップの側面には、環境省認定のバイオマスマークがプリントされています。

また、ごみの減量のために「リサイクルステーション」という回収ブースを会場内に3カ所設け、ごみの15品目分別回収を実施しました。他にも生ゴミ処理機を設置して、生ゴミの堆肥化にも取り組んでいます。

こうした活動の結果、平成18年度に約13t出していたごみを平成24年度には、約3tまで削減することに成功しました。



リユース食器「平皿」



バイオマスカップ



バイオマスマーク

## 第2章 環境教育・研究と環境保全

### 環境関連の授業科目

伊都地区センターゾーンにおいて、環境に関する授業科目は、以下の基幹教育科目41科目です。

#### 基幹教育科目

文系ディシプリン科目	地理学入門 The Law and Politics of International Society
理系ディシプリン科目	身の回りの化学 生命の科学A 生命の科学B 基礎生物学概要 集団生物学 生態系の科学 地球科学 最先端地球科学 地球と宇宙の科学
高年次基幹教育科目	環境問題と自然科学 環境調和型社会の構築 グリーンケミストリー 地球の進化と環境 生物多様性と人間文化A 生物多様性と人間文化B 遺伝子組換え生物の利用と制御
総合科目	水の科学 身近な地球環境の科学A 身近な地球環境の科学B 伊都キャンパスを科学するⅠ 伊都キャンパスを科学するⅡ 伊都キャンパスを科学するⅢ 糸島の水と土と緑Ⅰ 糸島の水と土と緑Ⅱ 体験的農業生産学入門 作物生産とフロンティア研究 放射線とは何だろうか？ 教養の放射線学と原子力Ⅰ 教養の放射線学と原子力Ⅱ 大気と海洋の環境学入門A 大気と海洋の環境学入門B 森林科学入門 水圏生態環境学入門 環境と安全Ⅰ 環境と安全Ⅱ 「自炊塾」～基礎編～ 「自炊塾」～応用編～ 農のための最適環境制御 未来社会と新エネルギー



## 第2章 環境教育・研究と環境保全

### 安全管理

---

#### ○安全管理体制

安全管理体制については、労働安全衛生法及び九州大学職員安全衛生管理規程等に基づき、「伊都地区センター・イースト安全・衛生委員会」を設置し、総括安全衛生管理者、衛生管理者、産業医、作業主任者等を配置し、事業場の安全衛生管理の徹底に努めています。

また、衛生管理者による職場巡視では、環境保全に配慮した観点から改善指導等に取り組んでいます。

#### ○毒物及び劇物の安全管理

毒物及び劇物による事故や環境汚染の防止に備え、「九州大学化学物質管理規程」の定めるところにより、対象薬品等を厳重に管理しています。

また、毒物及び劇物を取り扱う研究室においては、施錠可能な金属製保管庫を設置し、化学物質管理支援システムにより、常に在庫量及び使用量を把握しています。

### 第3章 エネルギー・資源の削減

#### 資源、エネルギー、廃棄物

令和元年度 資源、エネルギー、廃棄物関係のデータ

##### エネルギー使用量

電気	1,983 [千kwh]
ガス	140 [千m <sup>3</sup> ]
重油	0

※1

##### 水使用量

市水	2,484 [m <sup>3</sup> ]
トイレ用水	7,184 [m <sup>3</sup> ]
実験用水	433 [m <sup>3</sup> ]

※1

##### 分別ゴミ

	数量	処理法
可燃ごみ	270 [m <sup>3</sup> ]	焼却
金属くず	1,611 [kg]	再生
瓶	1,188 [kg]	再生
発砲スチロール	13 [kg]	再生
蛍光管	49 [kg]	再生
乾電池	74 [kg]	再生
スプレー缶	0	再生
不燃ごみ	558 [kg]	埋立
有害付着物	160 [kg]	焼却

※2

##### 実験系廃棄物

	数量	処理法
無機系廃液	680 [ℓ]	再生
有機系廃液	2,718 [ℓ]	焼却
廃薬品	36 [本]	埋立
廃ポンベ	0	再生
疑似医療系	0	焼却
実験系可燃物	451 [kg]	焼却

※2

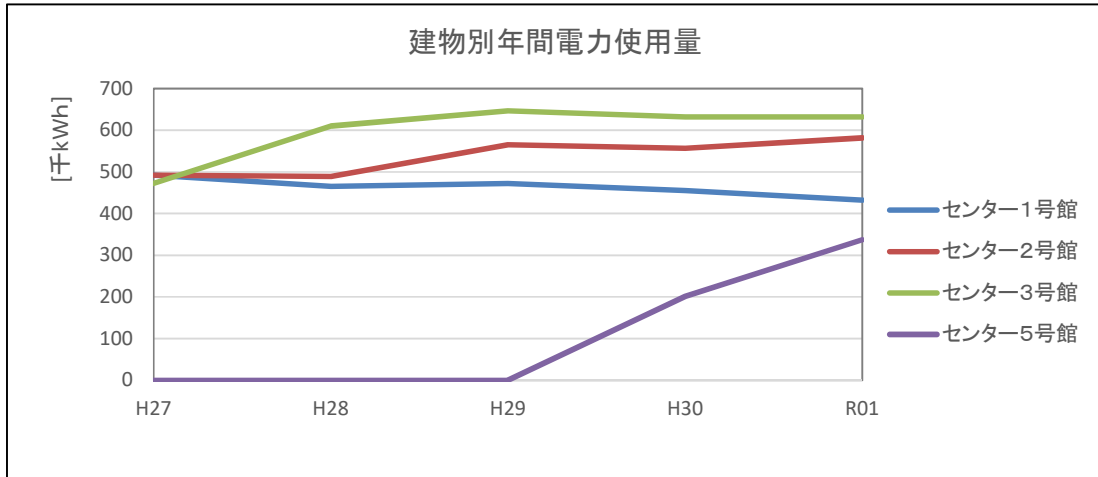
※1 センター1・2・3・5号館全体の総量

※2 センター1・2・3・5号館全体の総量に事務局分の一部を含む

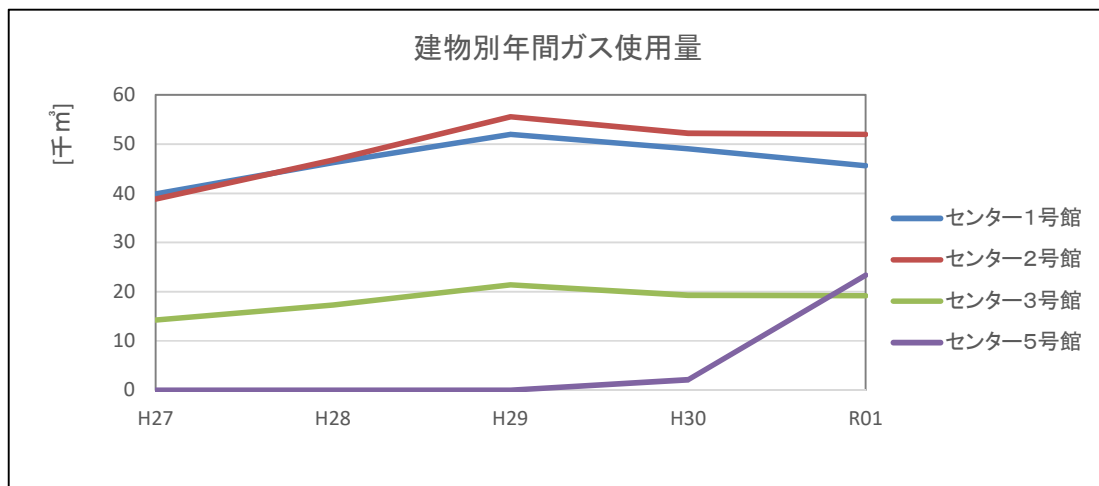
### 第3章 エネルギー・資源の削減

#### エネルギー消費と削減活動

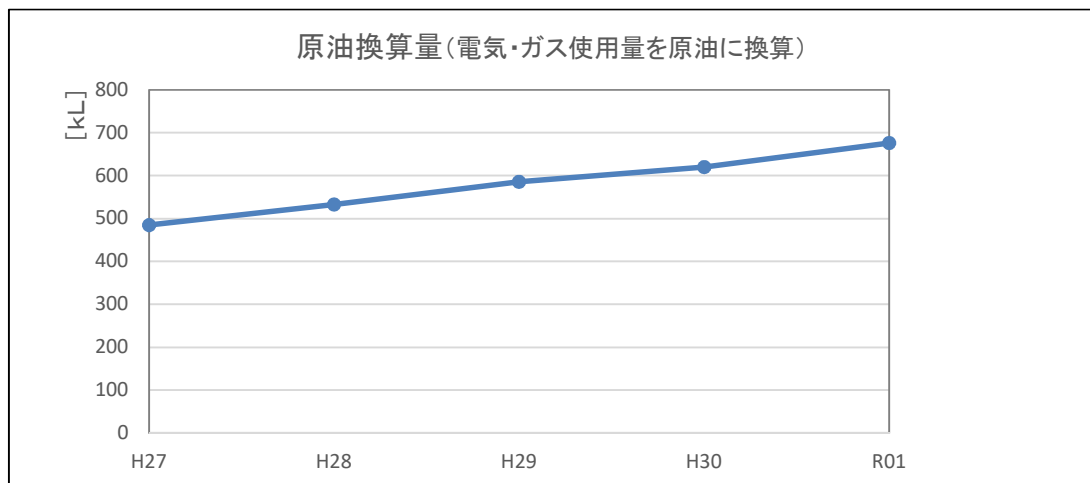
基幹教育院・共創学部における電力、都市ガスの消費量の推移を下記のグラフに示します。



※1



※1



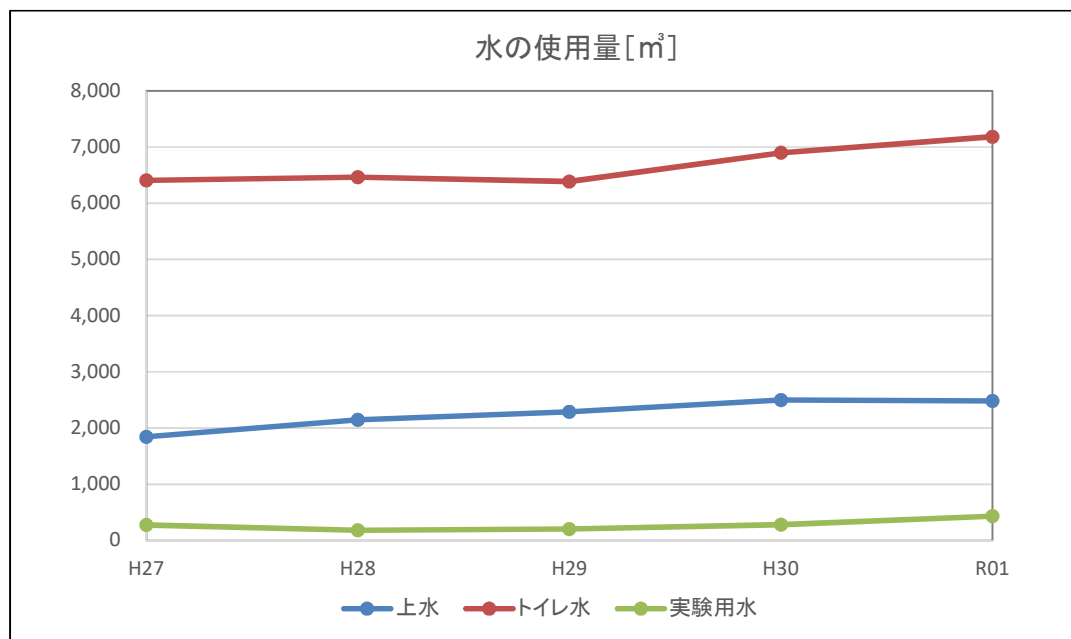
センター5号館は平成30年度末より運用開始

※1

### 第3章 エネルギー・資源の削減

#### エネルギー消費と削減活動

基幹教育院・共創学部における上水、トイレ水、実験用水の消費量の推移を下記のグラフに示します。  
トイレ水及び実験用水は学内の処理施設にて再生された水を使用しています。



※1

(エネルギーの総合的判断)

エネルギー使用量が前年度と比較し、増加しているが、平成30年度末、共創学部がセンター5号館に移転し、令和元年度より稼働をしたためである。

### 第3章 エネルギー・資源の削減

#### 用紙類の使用量削減、グリーン購入

##### ○用紙類の使用量削減

両面コピー、裏紙の利用等に努め、限られた資源に配慮し、用紙類の使用量削減に取り組んでいます。

##### ○グリーン購入

処理紙片の再資源化が可能な環境にやさしい廃棄処理を実現するシュレッダーを購入するなど、九州大学グリーン調達方針に基づく調達を行っています。

#### グリーン購入基準適合製品

分野	摘要
紙類、文具類	コピー用紙等、文具
機器類	事務機器等
OA機器	電子計算機等
家電製品	電気冷蔵庫等
エアコンディショナー等	エアコンディショナー等
温水器等	電気給湯器等
照明	蛍光管等
自動車等	自動車
消火器	消火器
制服・作業服	作業服等
作業手袋	作業手袋
その他の繊維製品	ブルーシート等
役務	印刷等

#### リサイクルシステムの利用

不用となった物品の譲渡照会を行い、リサイクルシステムの利用拡大を推進しています。

### 第3章 エネルギー・資源の削減

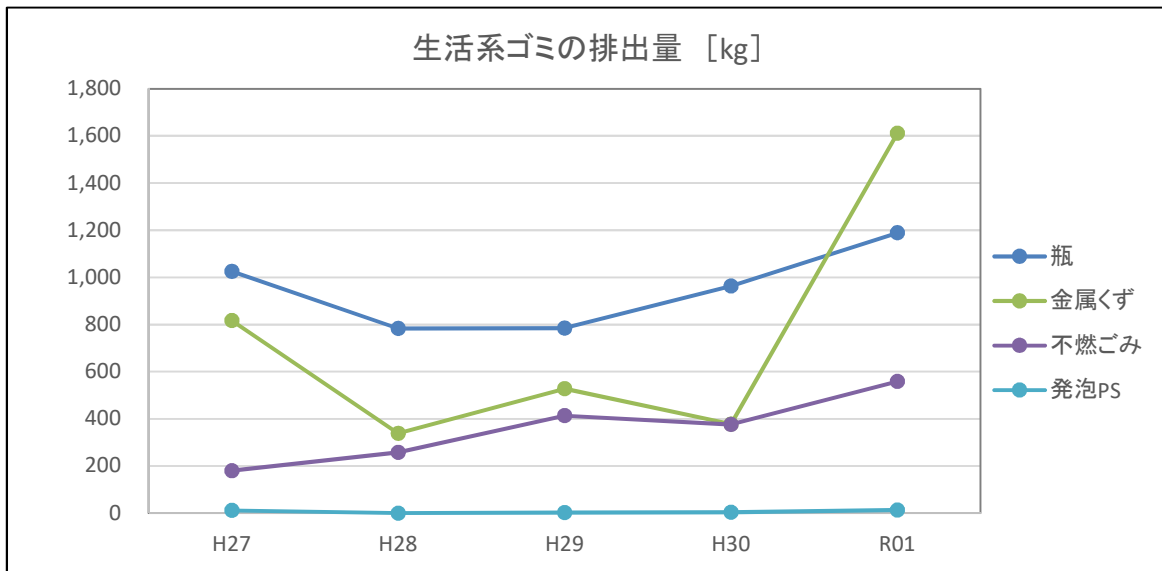
#### 生活系ゴミ

本学では、平成8年からごみの分別の取り組みを始めました。

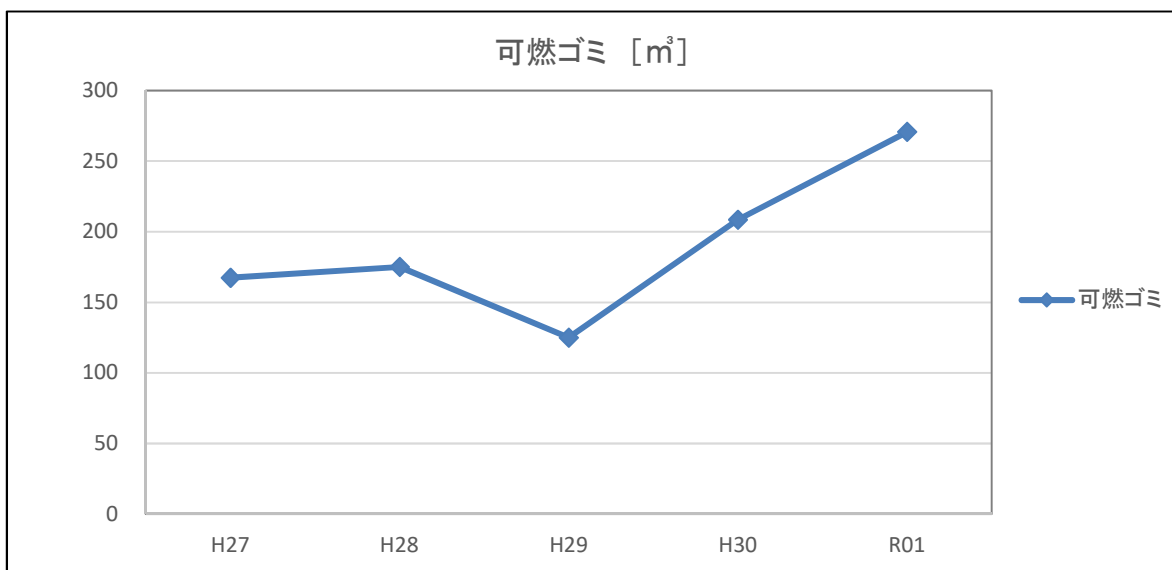
基幹教育院・共創学部でも、廃棄物の再資源化を目指して分別に取り組みました。

再資源化できるものは、全学的な取り組みにより回収業者に依頼しています。また、飲料缶、ペットボトルは、エコセンターにて回収して、再資源化処理を行っております。

今後も教職員の意識を啓発し、ごみの分別の更なる徹底(特に紙くずの可燃ごみからの分別)により、減量化・再資源化の推進を図ります。



※2



※1

## 第4章 化学物質の管理

### 廃棄物

#### ○廃棄物の資源化

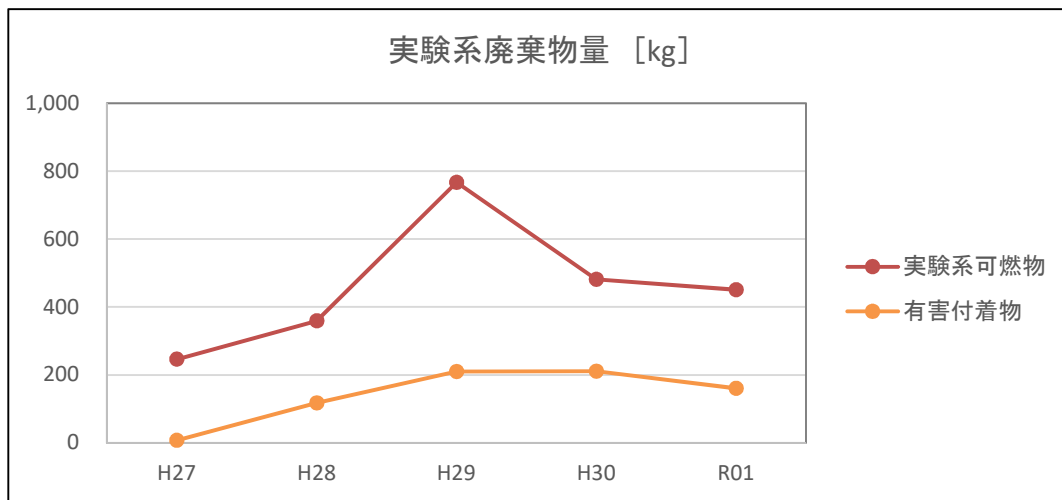
教育・研究により発生する廃棄物は、産業廃棄物(特別管理産業廃棄物)として市及び県からの運搬・処分許可をもつ業者により適正に処分しています。

有機系廃液、無機系廃液は毎月1回、廃薬品は年1回、環境安全センターを通して処分しています。

薬品瓶は汚染度により「資源化瓶」～「不燃ごみ」～「有害付着物」として処理します。「有害付着物」は重金属を回収し、残った瓶はセメント原料として再利用します。

#### ○廃棄物の排出量

下表は、令和元年度の廃棄物別の排出量を表しています。



※2

